



平成 19 年 3 月期 第 3 四半期財務・業績の概況（連結）

平成 19 年 1 月 25 日

上場会社名 株式会社ミスターマックス

（コード番号：8203 東証第 1 部・福証）

（商号 株式会社 **MrMax**）

（URL <http://www.mrmax.co.jp/>）

代 表 者 代表取締役社長 平野 能 章

問合せ先責任者 取締役経理本部長 中野 英 一

T E L (092)623-1111

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

- ① 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
 ・法人税等の計上基準については、法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。
- ② 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 有
 ・従来、事業用定期借地権上の建物等については、他の減価償却資産と同様法人税法の規定に基づく耐用年数により償却を行っていましたが、当連結会計期間より借地契約期間で償却を行うことといたしました。
 なお、この変更により、当第 3 四半期の販売費及び一般管理費は 109 百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ 109 百万円減少しております。
 ・従来、借地権は法人税法の規定に基づき、非償却資産として無形固定資産に計上していましたが、当連結会計期間より長期前払費用とした上で、賃借期間で均等償却することといたしました。
 なお、この変更により、当第 3 四半期の販売費及び一般管理費は 19 百万円増加し、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ 19 百万円減少しております。
 ・従来、テナント解約収入の区分は営業外収益に計上していましたが、当連結会計期間より特別利益に変更いたしました。
 なお、この変更により、経常利益が 287 百万円減少しておりますが、特別利益が 287 百万円増加しておりますので、税金等調整前四半期純利益への影響はありません。
 ・預り敷金・保証金の受入・返還による収入及び支出は、従来営業活動によるキャッシュ・フローに計上していましたが、当連結会計期間より投資活動によるキャッシュ・フローに計上することといたしました。
 なお、この変更により、営業活動によるキャッシュ・フローが 1,684 百万円減少し、投資活動によるキャッシュ・フローが 1,684 百万円増加しております。
- ③ 連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成 19 年 3 月期第 3 四半期財務・業績の概況（平成 18 年 4 月 1 日 ～ 平成 18 年 12 月 31 日）

(1) 経営成績（連結）の進捗状況

（単位：百万円未満切捨）

	営業収益		営業利益		経常利益		四半期 (当期) 純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19 年 3 月期第 3 四半期	71,417	7.8	1,202	31.5	1,416	22.8	1,039	200.4
18 年 3 月期第 3 四半期	66,222	△4.0	914	19.2	1,153	△6.8	346	△20.4
(参考) 18 年 3 月期	86,759		652		936		312	

	1 株当たり四半期 (当期) 純利益		潜在株式調整後 1 株当 り四半期 (当期) 純利益	
	円	銭	円	銭
19 年 3 月期第 3 四半期	28	70	28	69
18 年 3 月期第 3 四半期	9	41		—
(参考) 18 年 3 月期	8	50	8	48

（注）営業収益、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

【経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等】

当第3四半期において、ディスカウント・ストア事業を行う（株）ミスターマックスは、冬のボーナスシーズンに合わせ、オリジナルの32インチ地上デジタルチューナー内蔵テレビを89,800円という低価格で発売する一方、消耗品、高頻度品についても低価格を訴求する価格政策を継続し、ご来店お客様数とお買上個数の増加に努めてまいりました。

10月以降気温が平年に比べ高く推移したことから、季節商品の販売が伸び悩み、売上高既存店前年比はマイナス4.2%と苦戦しましたが、6月に開業した「ミスターマックス湘南藤沢ショッピングセンター」の賃貸収入及び「熊本インター店（3月開店）」と「湘南藤沢店（6月開店）」の売上高が寄与し、当第3四半期（平成18年10月1日～平成18年12月31日）の連結営業収益は24,867百万円（前年同期比103.6%）と増収となりました。

商品別では、暖冬の影響を受けた暖房用品が不振でしたが、オリジナルの皮むき甘栗200gを198円で発売した食品や、洗剤・化粧品、家庭用品、ゲーム機・ゲームソフト等は好調に推移しました。

この結果、当第3四半期までの9ヶ月間（平成18年4月1日～平成18年12月31日）の営業収益は71,417百万円（前年同期比107.8%）と増収となり、また、売上総利益率（荒利益率）を前年同期比0.9%改善し21.6%としたことから営業利益は1,202百万円（前年同期比131.5%）、経常利益は1,416百万円（前年同期比122.8%）と、ともに増益となりました。同期間の純利益は、当第3四半期において固定資産売却益を271百万円計上したことにより、1,039百万円（前年同期比300.4%）と大幅な増益となりました。

(2) 財政状態（連結）の変動状況

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
19年3月期第3四半期	81,977	28,626	34.8	795	43
18年3月期第3四半期	79,704	28,660	36.0	774	53
(参考) 18年3月期	77,498	28,400	36.6	773	83

(注) 18年3月期第3四半期、18年3月期通期の、純資産、自己資本比率及び1株当たり純資産は、それぞれ従来の株主資本、株主資本比率及び1株当たり株主資本を記載しております。

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
19年3月期第3四半期	3,481	△1,241	△1,197	2,916
18年3月期第3四半期	3,778	△804	△1,774	2,965
(参考) 18年3月期	3,443	△995	△2,342	1,873

【財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等】

① 資産・負債・純資産の状況

(資産・負債)

当第3四半期末における総資産は81,977百万円となり、前連結会計年度末と比較して4,478百万円増加いたしました。これは主に、減価償却や土地の売却により有形固定資産が1,809百万円減少した一方で、たな卸資産が2,589百万円、差入保証金が1,332百万円、売掛金が1,201百万円、現金及び預金が1,043百万円、それぞれ増加したことなどによるものです。

有利子負債（長短借入金）は前連結会計年度末と比べ1,444百万円減少し、21,295百万円となりました。その結果、デット・エクイティ・レシオ（純資産に対する有利子負債の比率）は0.80倍から0.74倍へと改善いたしました。

(純資産・自己資本比率)

当第3四半期末における純資産は28,626百万円となりました。また、従来の資本の部に相当する金額は28,556百万円であり、前連結会計年度末と比較して156百万円増加いたしました。これは利益剰余金の増加による純資産の増加が676百万円であったのに対して、自己株式の増加による純資産の減少が463百万円あったことなどによるものです。総資産の増加により自己資本比率は36.6%から34.8%へと減少いたしました。

② キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により得られた資金は3,481百万円となりました。これは主に仕入債務の増加4,294百万円、税金等調整前四半期純利益1,870百万円及び減価償却費1,422百万円などの収入があった一方で、たな卸資産の増加2,589百万円及び売上債権の増加1,272百万円などの支出があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は1,241百万円となりました。これは主に前連結会計期間及び当連結会計期間に開設した店舗及びショッピングセンターなどの差入敷金・保証金の増加による支出1,907百万円、有形固定資産の取得1,546百万円、また、次年度の出店に備えた予約敷金800百万円などの支出があった一方で、ショッピングセンター開業に伴う預り敷金・保証金の増加1,684百万円、有形固定資産の売却1,100百万円などの収入があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用した資金は1,197百万円となりました。これは主に長期借入金の減少額1,444百万円などによるものです。

これらの結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、前連結会計年度末と比較して1,043百万円増加し、2,916百万円となりました。

3. 平成19年3月期の連結業績予想(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

	営業収益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	93,180	1,490	840

(参考)1株当たり予想当期純利益(通期) 23円18銭

【業績予想に関する定性的情報等】

代表取締役会長平野比左志の取締役退任(平成19年1月11日公表)に伴い、創業者功労金支払原資として373百万円を引当金として計上し、第4四半期に特別損失として同額を計上いたします。その結果、当期純利益予想数値を当初予想(平成18年11月17日公表)より220百万円減少し、上記のとおり修正いたします。営業収益、経常利益につきましては、当初見込の範囲内で推移しております。

※ 平成19年1月11日公表の「代表取締役の異動及び特別損失発生に関するお知らせ」では、当期純利益への影響額を223百万円とお知らせいたしましたが、今回の業績予想数値につきましては、10百万円単位で表記しております。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

1. (要約) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円未満切捨、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期末)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
I 流動資産					
1. 現金及び預金	2,916	2,965	△49	△1.7	1,873
2. 売掛金	2,041	1,786	254	14.3	840
3. たな卸資産	11,302	10,609	693	6.5	8,713
4. 繰延税金資産	177	214	△36	△17.1	177
5. その他	866	738	128	17.3	1,591
流動資産合計	17,304	16,314	990	6.1	13,196
II 固定資産					
1. 有形固定資産					
(1) 建物及び構築物	20,908	20,693	214	1.0	21,748
(2) 土地	28,776	29,644	△868	△2.9	29,730
(3) その他	988	1,258	△270	△21.5	1,004
有形固定資産合計	50,674	51,597	△923	△1.8	52,483
2. 無形固定資産	443	1,000	△556	△55.6	1,054
3. 投資その他の資産					
(1) 投資有価証券	743	1,167	△424	△36.3	1,151
(2) 差入保証金	5,831	4,578	1,253	27.4	4,498
(3) 繰延税金資産	447	360	86	24.0	409
(4) その他	6,538	4,692	1,846	39.3	4,708
貸倒引当金	△5	△5	—	—	△5
投資その他の資産合計	13,555	10,793	2,762	25.6	10,763
固定資産合計	64,673	63,390	1,282	2.0	64,302
資産合計	81,977	79,704	2,272	2.9	77,498

株式会社ミスターマックス (8203)

(単位：百万円未満切捨、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期末)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(負債の部)					
I 流動負債					
1. 支払手形及び買掛金	17,649	17,524	124	0.7	13,355
2. 短期借入金	230	220	10	4.5	230
3. 1年以内返済予定 長期借入金	8,180	9,946	△1,766	△17.8	10,839
4. 未払法人税等	652	320	332	103.7	147
5. 賞与引当金	248	202	45	22.5	342
6. その他	3,593	2,800	792	28.3	3,980
流動負債合計	30,553	31,014	△461	△1.5	28,893
II 固定負債					
1. 長期借入金	12,885	11,840	1,045	8.8	11,670
2. 退職給付引当金	403	375	27	7.4	396
3. 役員退職慰労引当金	864	864	—	—	864
4. 預り保証金	4,342	3,906	436	11.2	4,042
5. その他	4,300	2,981	1,318	44.2	3,160
固定負債合計	22,797	19,969	2,827	14.2	20,135
負債合計	53,350	50,983	2,366	4.6	49,029
(少数株主持分)					
少数株主持分	—	61	—	—	68
(資本の部)					
I 資 本 金	—	10,229	—	—	10,229
II 資 本 剰 余 金	—	9,951	—	—	9,953
III 利 益 剰 余 金	—	9,178	—	—	9,145
IV その他有価証券評価 差額金	—	168	—	—	158
V 自 己 株 式	—	△868	—	—	△1,086
資 本 合 計	—	28,660	—	—	28,400
負債、少数株主持分 及び資本合計	—	79,704	—	—	77,498

(単位：百万円未満切捨、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期末)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期末)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(純資産の部)					
I 株 主 資 本					
1. 資本金	10,229	—	—	—	—
2. 資本剰余金	9,952	—	—	—	—
3. 利益剰余金	9,821	—	—	—	—
4. 自己株式	△1,549	—	—	—	—
株 主 資 本 合 計	28,453	—	—	—	—
II 評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金	102	—	—	—	—
評価・換算差額等合計	102	—	—	—	—
III 少数株主持分	70	—	—	—	—
純 資 産 合 計	28,626	—	—	—	—
負債、純資産合計	81,977	—	—	—	—

(注) 1. 従来、事業用定期借地権上の建物等については、他の減価償却資産と同様法人税法の規定に基づく耐用年数により償却を行っておりましたが、当連結会計期間より借地契約期間で償却を行うことといたしました。

2. 従来、借地権は法人税法の規定に基づき、非償却資産として無形固定資産に計上しておりましたが、当連結会計期間より長期前払費用とした上で、賃借期間で均等償却することといたしました。

2. (要約) 四半期連結損益計算書

(単位: 百万円未満切捨、%)

科 目	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	増 減		(参 考) 平成18年3月期
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
I 売上高	68,506	63,964	4,542	7.1	83,748
II 売上原価	53,696	50,747	2,948	5.8	66,570
売上総利益	14,810	13,216	1,593	12.1	17,178
III 不動産賃貸収入	2,911	2,258	653	28.9	3,010
営業総利益	17,721	15,475	2,246	14.5	20,188
IV 販売費及び一般管理費	16,518	14,560	1,958	13.4	19,536
1. 販売費	3,576	3,316	259	7.8	4,360
2. 一般管理費	12,942	11,244	1,698	15.1	15,176
営業利益	1,202	914	288	31.5	652
V 営業外収益	458	484	△25	△5.3	616
1. 受取利息	53	37	15	39.9	50
2. テナント解約収入	—	25	△25	—	26
3. 受取手数料	147	146	0	0.2	191
4. 仕入割引	168	142	26	18.7	191
5. その他	89	132	△42	△32.2	156
VI 営業外費用	245	245	△0	△0.3	332
1. 支払利息	229	237	△8	△3.5	308
2. その他	15	7	7	95.8	23
経常利益	1,416	1,153	263	22.8	936
VII 特別利益	568	25	543	—	27
1. テナント解約収入	287	—	287	—	—
2. 固定資産売却益	271	—	271	—	—
3. 投資有価証券売却益	10	25	△14	△58.0	27
VIII 特別損失	115	310	△195	△62.9	314
1. 固定資産除却損	90	1	89	—	5
2. 減損損失	—	306	△306	—	306
3. その他	24	2	21	725.1	3
税金等調整前四半期(当期) 純利益	1,870	868	1,001	115.4	649
法人税、住民税及び事業税	829	517	311	60.2	330
法人税等調整額	0	0	0	△80.0	△5
少数株主利益	1	4	△3	△74.2	12
四半期(当期)純利益	1,039	346	693	200.4	312

(注) 従来、テナント解約収入の区分は営業外収益として計上しておりましたが、当連結会計期間より特別利益に変更いたしました。

3. (要約) 四半期連結株主資本等変動計算書

当四半期 (自 平成 18 年 4 月 1 日 至 平成 18 年 12 月 31 日)

(単位：百万円未満切捨)

	株主資本					評価・換算 差額等	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主 資本合計	その他 有価証券 評価差額金		
平成 18 年 3 月 31 日残高	10,229	9,953	9,145	△1,086	28,241	158	68	28,469
当四半期変動額								
剰余金の配当 (注)			△363		△363			△363
四半期純利益			1,039		1,039			1,039
自己株式の取得				△473	△473			△473
自己株式の処分		△1		10	9			9
株主資本以外の項目の 当四半期変動額(純額)						△55	1	△54
当四半期変動額合計	—	△1	676	△463	211	△55	1	157
平成 18 年 12 月 31 日残高	10,229	9,952	9,821	△1,549	28,453	102	70	28,626

(注) 剰余金の配当のうち 183 百万円は、平成 18 年 6 月の定時株主総会における利益処分項目であります。

4. (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円未満切捨)

	当四半期 (平成19年3月期 第3四半期)	前年同四半期 (平成18年3月期 第3四半期)	(参考) 平成18年3月期
区 分	金 額	金 額	金 額
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,870	868	649
減価償却費	1,422	1,221	1,658
受取利息及び受取配当金	△60	△44	△57
支払利息	229	237	308
固定資産売却益	△271	—	—
固定資産除却損	90	1	5
たな卸資産の増減額(増加：△)	△2,589	△1,844	51
売上債権の増減額(増加：△)	△1,272	△940	97
仕入債務の増加額	4,294	4,718	546
預り敷金・保証金の増減額(減少：△)	—	△105	207
減損損失	—	306	306
その他	257	△31	342
小 計	3,971	4,388	4,116
利息及び配当金の受取額	18	19	23
利息の支払額	△197	△210	△278
法人税等の支払額	△311	△417	△417
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,481	3,778	3,443
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
投資有価証券の売却による収入	437	1,021	1,036
投資有価証券の取得による支出	△133	△160	△175
有形固定資産の売却による収入	1,100	0	0
有形固定資産の取得による支出	△1,546	△1,523	△1,726
無形固定資産の取得による支出	△76	△209	△282
差入敷金・保証金の増減額(増加：△)	△1,907	58	143
預り敷金・保証金の増加額	1,684	—	—
出店等予約敷金の支出	△800	—	—
その他	1	8	9
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,241	△804	△995
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
短期借入金の増減額(減少：△)	—	△60	△50
長期借入金による収入	8,000	4,500	7,500
長期借入金の返済による支出	△9,444	△5,979	△8,256
配当金の支払額	△345	△340	△367
工事代金立替金の増減額(増加：△)	1,056	—	△1,056
その他	△464	104	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,197	△1,774	△2,342
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	0	0	0
V 現金及び現金同等物の増加額	1,043	1,199	107
VI 現金及び現金同等物の期首残高	1,873	1,765	1,765
VII 現金及び現金同等物の期末残高	2,916	2,965	1,873